

# 自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

## 地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

## ○記入方法

### [取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

### [取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

### [取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

### [特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

## ○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## ○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	サロン・ド・フレール羽島
(ユニット名)	1F
所在地 (県・市町村名)	岐阜県羽島市竹鼻町丸の内9丁目53番地
記入者名 (管理者)	岩田 定之
記入日	平成 20年 6月 17日

(様式1)

## 自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
<b>1. 理念と共有</b>			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	○	地域・家族・今後もますます「響きあい」の関係ができるよう、日々の挨拶から大切にしていきたい。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	○	職員同士の意識が広まるように新しい職員にも、意識が広まるよう、よく話をしていきたい。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	○	今後も地域の方が、外からも分かるような取り組みをしていきたい。
<b>2. 地域との支えあい</b>			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	○	徐々にではあるが、声をかけて下さる回数、尋ねて下さる回数が増加してきたため、今後もますます力を入れていきたい。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	○	徐々にではあるが、地域の方々にどんな所であるのかをわかっていただくため地域の方々との交流の場を大切にしていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	広報で呼びかけボランティアを取り入れて、簡単に「介護・認知症の知識」を広げられるように取り組みをした	○	本年は8月にも学生の施設体験など予定しており、認知症の正しい理解を広めていけるような取り組みをしていきたい。
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	定期的な本社会議・ユニット会議・委員会等などの場でも話し合い、その改善策を日々の業務に生かすよう取り組んでいる。	○	どんな職員にも、よりよく理解してもらえるよう話をしていきたい。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所・施設での取り組み予定・実施内容等について報告し、会議出席者の意見を伺い、傾聴していきながら日々質の向上を目指している。	○	今後もざっくばらんに意見交流できる雰囲気や会議進行を行い、またご家族様・利用者様・他職員参加できるように取り組みたい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議以外にも、機会をつくり、相談、検討内容を出向いたり電話相談等でお話し、市町村の現状把握に努め質の向上を目指している。	○	今後も市町村と連携に努めていき、サービスの質の向上を目指していきたい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	事例検討に当たりそうな方が見えるときは各会議の場や、日々の話し合いの中で検討会が出来ている。	○	必要な人にはご家族様・本人様を含め適切に支援ができるよう努め、職員教育の観点でも勉強会を開催していきたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	会議時間帯に研修時間を設け、高齢者虐待防止関連法についての話も出来ており、日々の業務の中でも意識している。	○	今後も防止の徹底に努めていく。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)	
<b>4. 理念を実践するための体制</b>				
12	○契約に関する説明と納得  契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事前訪問、見学時にも説明し入所契約時にも時間をとって質問・疑問等に対応している。	○	今後も契約前後にて不安や疑問点等がないか傾聴していき、努めていきたい。
13	○運営に関する利用者意見の反映  利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	管理者・職員は常に意見等を受け入れられる体制作りを整えており家族様・利用者様が気軽に意見等を言い出せるように努めている。	○	意見等を運営に反映させるため管理者・職員または、ご家族・本人様との話し合いの場を設けていけるようにしていきたい。
14	○家族等への報告  事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	毎月ホーム新聞を発行し、家族へ送付している。また、面会時や電話等で個々に合わせた報告を行っている。	○	今後も気軽に面会に来ていただき、話していただけるような雰囲気作りに努めていきたい。
15	○運営に関する家族等意見の反映  家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	管理者、職員は常に意見等を受け入れられる体制作りをしている。外部の苦情相談窓口も玄関に表示している。	○	運営推進会議などへの出席を促しているが、なかなか参加していただけないため、別の場で気軽に集まっただけのような家族会を進めていきたい。
16	○運営に関する職員意見の反映  運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	事業所と定期的なヒヤリングの場を設けており、その都度管理者に意見や提案をし検討したうえで業務に反映させる機会を設けている。	○	今後も職員が提案しやすいような雰囲気作りに努めていきたい。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整  利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	状況に応じて、柔軟な対応が出来るよう職員同士、協力できている。	○	今後も協力していきたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
18 ○職員の異動等による影響への配慮  運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	ここ数年は大きな異動・離職はない。職員の異動等がないよう、管理者によるアドバイス・配慮が行われている。	○	今後も異動や離職を考える原因が職員によりものであれば、未然に防ぐ事ができるような対処を考え対応していきたい。
<b>5. 人材の育成と支援</b>			
19 ○職員を育てる取り組み  運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の機会の情報伝達があり、管理者や職員など、各段階に応じた研修参加を促している。	○	各研修で学んだ内容を全職員に広めて学んでいけるような場を会議などの場で設け、全職員が意欲的に研修に参加できるような環境作りをしていきたい。
20 ○同業者との交流を通じた向上  運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者及び管理職が、ホームの代表として交流ネットワークに努め、サービスの向上を目指している。	○	今現在もホーム全体での交流としては、まだ少なく課題もあるため今後も取組んでいきたい。交流等で学んだことを日々の業務にいかせるよう話し合いの場も設けていきたい。
21 ○職員のストレス軽減に向けた取り組み  運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	管理者及び管理職が、普段から声かけをしてお話しをし悩みを気軽に言い出せるような雰囲気作りに努めている。	○	各職員からの悩み、相談事に対しては今後も離職も念頭に置き迅速かつ適切に対応していけるよう努めていきたい。
22 ○向上心を持って働き続けるための取り組み  運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	個々の職員の努力、実績・能力・個々の想い等の把握に努めている。	○	各職員が、向上心を持って働き続けることができるように運営者の協力の下に取り組んでいきたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	必ず事前訪問の機会を設け、本人自身と合わせていただき、不安や困っていることに注視しよく話を伺うよう努めている。	○ 今後も本人自身が気軽に話しやすくなるために雰囲気作りに努め、また言葉として自身の思いを表せない方にも注視し対応していきたい。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談時には、話をよく聞き内容をしっかりとらせることができるよう努めている。	○ 相談者が話しやすいような姿勢や雰囲気作りに努める。また、何度も顔を会わせての話の機会を設け、信頼関係の構築に努めたい。
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	主訴をしっかりとらえ、当グループホームだけでなく、他のサービス利用も含めた情報提供により、より良い支援方法はないかを見極めていけるよう努めている。	○ 今後も色々な立場から支援にむけた対応に努めたい。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人、家族の状況に応じ傾聴し相談して対応するよう努めている。	○ 可能な限り本人・家族に当ホームはどういう所なのか、納得した上での安心して利用していただけるようにサービス開始を目指していきたい。
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>			
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	本人と共に支え合う関係を、ケア理念のもとにその機会を設け関係を築くよう努めている。	○ 今後もますます、機会・場面作りを大切にし、傾聴していきより良い関係を築いていけるよう努めたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	面会時や電話時など、ホームでの本人の様子を伝えるよう努め、一緒に本人を支えていく関係を目指している。	○	今後もホーム新聞などや案内状などを活用し外出・行事などに気軽に一緒に参加していただけるよう、働きかけていきたい。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	これまでの経緯を理解するために、情報交換に努めより良い関係が築いていけるよう取り組んでいる。	○	正しく理解するために、細かい情報収集にも、常に心掛けていき、行事などへの共同参加を促していく。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	日々の本人との会話や、家族との会話からも情報を収集し、支援に努めており、また、近所の交友関係の方にも気兼ねなくきていただいたり、馴染みのお店や食事へ行っている。	○	今後も実際に馴染みの場所へ出かけられる様、支援していきたい。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者様の会話などに注視し円滑に過ごせるよう、時にはパイプ役となりながら努めている。	○	個々の利用者が方も孤立しないよう、さり気なく支援していきたい。
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	サービス利用が終了しても、場合によって継続的な関わりを大切にしている。また近隣の方でよくお会いできる方々にも挨拶し会える関係である。	○	いつでも、気軽に連絡していただけるように四季に応じたお便りなどが出せるように関係を大切にしていきたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>			
<b>1. 一人ひとりの把握</b>			
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で、一人ひとりの思いや意向の把握に努めている。困難な場合は本人に関する様々な情報、日常生活の中でちょっとした表情・様子をもとに検討している。	○ 自分の思いを表情や仕草などで表現する事が困難な場合にも、何かしらサインがあるものと考え、そのサインを見逃さないよう日々関わっていきたい。また、そのサインを見出したときには、会議等で話し合い検討していききたい。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時当所の情報にとどまらず、時間をかけて信頼関係が築けているからこそ伺える情報を大切にしている。また、その信頼関係の構築に取り組んでいる。	○ 一人ひとりの生活歴の詳細から、これまでの人生を把握し日々のサービスに反映できるようご家族の面会時にはこまめに話を伺っていききたい。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	定期的（状況に応じて不定期的）なアセスメントを行ない、一人ひとりの現状を総合的に把握するように努めている。	○ 把握した現状に合わせ、個々に合ったサービス提供を行いその上で質の向上に努めたい。
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>			
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人・家族は基より必要な関係者と話し合い、本人により良く生活していたでけるよう、介護計画を作成している。	○ 職員間で深く内容を把握するために、会議の場などを利用してもっと内容のある意見交換を設けていききたい。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的な見直しを行い、それ以外にも状況変化があるときは、その現状に即した計画を作成できるよう見直している。	○ 施設内では日常生活主体であり、細かな事まで突き詰めれば、毎日変化はあるため介護計画の中にも臨機応変さが求められるので、本人・家族・関係者・スタッフ間での連携をよりよく築いていく。



項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常の変化や気づきを、個々の介護記録、連絡ノート、申し送り簿などに記入している。それらを介護計画の見直しに活かしている	○	全職員が情報を共有し意欲的に取り組むためにも、情報共有はもちろんのこと、全職員の意識向上を目指し、声を掛け合いながらの連携をより進めて行く。
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
39	○事業所の多機能性を活かした支援  本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	以前はたまにとまっていられる家族もみえました。また、ご家族の方で体調を崩され救急搬送対応したこともありました。バリアフリーになっているため車椅子の方でも生活していただける。浴槽も三形態あるため、状態に応じて入っていただける。	○	今後とも要望に応じた対応体制を整えていき、どんなときにも支援できるような職員教育等にも生かしていきたい。
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
40	○地域資源との協働  本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	本年は広報のボランティア募集にも反響があり、わずかではあるがボランティアの方もみえている。今後も地域の恵まれた条件を活かしていき、より良く生活していただけるよう様々な地域資源との協働に努めている。	○	本年は、広報でのボランティアなどの公募なども活用していき、地域資源との協働に努めていきたい。
41	○他のサービスの活用支援  本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	他の医療機関の活用に努めている。(眼科・歯科など)理学療法士の方に月に1回来ていただいている。また個別でのリハビリサービスを受けてみえる方もみえる。	○	今後とも必要に応じた他のサービスの支援をしていく。
42	○地域包括支援センターとの協働  本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	本年は地域包括支援センターからも運営推進会議に出席していただいております。またボランティアの事に関しても話し合いなどの時間を不定期ですが設けてきています。	○	更に密な関係作りをしていき、電話や出向いたりしていきながら、協働していく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	契約前後で説明を行い、本人及び家族が今までのかかりつけ医と当ホームの主治医とを選択できるよう、適切な情報提供、説明に努めている。	○	本人の状況に応じた、より適切な医療を受けられるように支援していきたい。
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	主治医が認知症について理解があり、本人の状況に応じて必要な意見交換ができておりまた、いつでも相談できる体制にある。	○	今後も本人の状況に応じた認知症の理解が得られるよう、今後も関係を築いていきたい。
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護職といつでも相談できる体制（電話連絡・担当窓口体制）にあり、看護ノートも活用しながら、日常の些細な事でも協働できるよう努めている。	○	今後も良い支援ができるよう協働していきたい。
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時には、ホームでの生活等サマリーなども使用し、情報提供に努め入院中も何度となく面会に行き、入院中の認知症進行予防を目指し、退院後もホームで無理なく支援できるよう、病院関係者と連携できるように努めている。	○	今後も、安心して入院生活ができるよう、面会をこまめにおこない、なじみの関係などを意識していきたい。
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	本人の様子を家族、かかりつけ医等、各関係機関に正確に伝え、より本人が安心して生活できるように話し合っただけでその都度検討している。	○	終末期に向けた話し合いの中で、具体的にあがっている様々な課題について今後も検討していき実行できるようにつとめる。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	事業所の「できること、できないこと」をしっかりと見極め、具体的に様々な課題をあげ、話し合っている。	○	具体的な課題について、チームで取り組んでいけるようにチーム全体のレベルアップを目指すことはもとより、今チームとして出来ることを1つ1つ支援していきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止  本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	関係者には、ホームでの生活の様子をサマリーや電話等で情報提供交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐよう努めている。また、実際に移る場合も本人の状態応じてさりげなく対応している。	○	今後も本人が安心できるようになるまで、馴染みの人の協力を促し支援する。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>				
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>				
50	○プライバシーの確保の徹底  一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	プライバシーや個人情報の取り扱いには十分配慮しているつもりだが、声かけの内容によっては、自分自身で気付かずに失礼な言葉となってしまうのかもしれない。	○	全職員で、お互いに指摘しながら徹底していけるよう努めたい。また、自尊心への配慮も忘れずにつとめていく。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援  本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	本人の状態に合わせて、働きかけ方を工夫している。	○	希望・自己決定の能力に応じて、さらに本人様が暮らしやすく生活できるかを検討しながら支援する。
52	○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切にすることが大前提とし、他の利用者の方との共同生活であることも考慮しながら、常に一人ひとりのその人らしい暮らし方を追求している。	○	共同生活の中で可能な限り、その人らしい暮らし、ご希望にそえるよう、今後も工夫していきたい。
<b>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>				
53	○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	日常生活において可能な限り、その人らしい身だしなみ、おしゃれに心掛け支援している。美容院へ行く事が好きな方は、定期的に行けるよう支援している。	○	外出時・外出以外でのお化粧や身だしなみを今後も継続して支援していきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	皮むきやスジ取り、配膳、食器拭きなど利用者の方に声をかけ一緒に行うよう努めている。無理強いはせず、気が向いた方がいれば一緒に行っている。	○	いかに意欲を引き出せるか課題である。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	利用者の方の好みをたずねたりおいしいと言われた食べ物をまた作るようにしている。	○	お酒が好きな方においても、もっと日常的に楽しめるよう回数を多くしたい。
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	可能な限りトイレで用をたせるように時間を見計らって誘導している。	○	ひどい便秘の方に関して、少しでも本人に苦のないような方法、習慣を見つけていきたい。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	共同生活の中で可能な限り、一人一人の希望やタイミングに添えるよう努めている。	○	入浴がお好きでない方に関して、少しでも本人に苦のないような方法を見つけて配慮していきたい。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	一人一人の状況に応じて適度な急速をして頂けるよう、音楽をかけたりしながらゆったりとした雰囲気作りに努めている。	○	季節に応じた、または一人一人に応じたこまめな空調管理や衣類・布団の調節。例えば、利用者の方の身になって感じ、些細なことでも気がつけるようにしたい。
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人一人の生活歴を活かした気晴らしの方法を探り可能な限り支援している。	○	一人一人全員に役割を持って頂けるように、楽しみごとを見出せるような支援をしていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60	○お金の所持や使うことの支援  職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	可能な方は個人のお財布を持っていただいたり、買い物へ行ったときのお支払いなど一人一人の状況に応じた対応を心がけている。	○	買い物の時、時間をかければお支払い出来る方に関して、お店の方や他のお客さんへの理解をもっと広めていきたい。
61	○日常的な外出支援  事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買い物、公園、お祭り、イベントなどの参加、天気の良い日に気持ちよく外出できるよう支援している。	○	個人の（家族の）希望に添った計画作りと実施に努めたい。
62	○普段行けない場所への外出支援  一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	回数は少ないが、機会を作り出来る限り支援するよう努めている。	○	家族も一緒に出掛けられるような外出の機会を多くしたい。
63	○電話や手紙の支援  家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	一人一人の状況に応じて可能な限り支援している。	○	入居に至るまでの歴史が一人一人違うため、正しく理解し、相手の方の精神的負担を考えながら、場合によっては長期的に時間をかけ、相手の方への理解を広めていけるよう努めたい。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援  家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	いつでも気軽に来ていただけるような雰囲気作りに努めている。	○	入居に至るまでの歴史が一人一人違うため、正しく理解し、相手の方の精神的負担を考えながら、場合によっては長期的に時間をかけ、相手の方への理解を広めていけるよう努めたい。
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>				
65	○身体拘束をしないケアの実践  運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	会議などで法令を学び、ホーム環境を見直し、身体拘束のないケアをする事を大前提に取り組んでいる。	○	緊急時やむを得ない場合のケースには、家族とともに全職員で考え、他に方法はないのかよく話し合う。


項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	施設立地条件面から安全面と治安面を配慮して取り組んでいる。	○	鍵をかける弊害・かけない弊害をよく話し合い、現状を当たり前ととらえることのないよう意識していきたい。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	プライバシーに考慮しながら一人一人の様子を把握できるようさり気なく見守り、必要に応じ声かけを行っている。	○	日夜問わず見守り巡視に留意していく。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	さり気なく見守りを行い、一人一人の状態の変化に応じて環境を整えたり、声かけを行っている。また、目につきやすい危険な物はカーテンなどを使い安全に努めている。	○	
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ひやり・はっと報告書やその他介護に関する様々な情報を参加に取り組んでいる。	○	同じケースのひやり・はっと報告書が多い。現状のあらゆる条件の中で出来る改善策を見つけ、再発を防止していきたい。
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	会議等で様々な問題をあげて検討している。	○	全職員一人一人が、命に関わる仕事である意識を高めていく。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	近隣の消防署に訓練を依頼して定期的に行っている。マニュアルと避難時の把握に努めている。	○	参加できる利用者の方と一緒に今後も訓練していきたい。全職員が把握し対応できるようにしたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	状況の変化によって起こり得る様々なリスクについて、その都度家族等に説明し、理解を得られるよう努めている。	○	抑圧感のない暮らしを大切にしたい安全な対応策を追求したい。
<b>(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	バイタルチェック、食事量、入浴時、排泄など常に気をつけ、個々の状態把握に努めている。また、気づいた時には速やかに対応できるよう目指している。	○	日々医療面と連携できる体制作りに努めている。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	何度も職員間でチェックし、誤りのないよう意識している。	○	薬の変更、臨時薬時は特に注意する。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	水分補給、繊維質の多い食品の摂取、腹部のマッサージなど意識して取り組んでいる。	○	運動をもっと取り入れたい。また、引き続き医師・看護師等の意見を踏まえ対応していく。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の口腔ケアに努めている。一人一人の状態に応じ支援方法を工夫している。	○	状態の変化に合わせたケアの方法を学び支援する。
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量、食事量は常にチェックしている。摂取量が少ない場合は、好みやタイミングにより少しでも摂取できるよう努めている。	○	夏場はよりこまめな水分補給をすすめたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	マニュアルをもとに会議等で学び予防に努めている。本社からも日々情報があり、その都度現状を見直している。	○	石鹸による手洗い・うがいの徹底。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	手洗い、消毒、食材の管理、台所の清潔保持など衛生面に留意し、食中毒のないよう安全な食事に心がけている。	○	日々の情報、ニュースなどを踏まえて意識を高めていきたい。
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>				
<b>(1)居心地のよい環境づくり</b>				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関周りに草花を植え開放的で家庭的な雰囲気を目指している。	○	道路へ出る時の段差の解消。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共同空間には、皆さんの写真を飾ったり季節感を感じて頂けるよう、その都度インテリアを工夫している。	○	利用者の方の手作りの物を飾るなど、より居心地良く過ごして頂けるような空間作りを追求したい。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共同空間の中にも、所々に気のあった利用者同士で過ごせるようなスペースを作っている。	○	個別でゆったりと対応、対話ができるような時間作り。



項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過 ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具、愛着のある物など本人、家族に 協力を得ながら居心地良く過ごして頂けるよう配 慮している。	○	場合によって、愛着のあるもの等、もっと持って きて頂くことが出来るよう相談していきたい。
84	○換気・空調の配慮  気になるにおいや空気のだよみがないよ う換気に努め、温度調節は、外気温と大き な差がないよう配慮し、利用者の状況に応 じてこまめに行っている	毎朝の換気や温度差を感知したこまめな窓の開閉 に努めている。また、乾燥時には加湿にも配慮し ている。	○	全職員が状況に応じてこまめに行っていけるよ うになりたい。
<b>(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</b>				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの身体機能を活か して、安全かつできるだけ自立した生活が 送れるように工夫している	手すりを利用しての歩行、シルバーカー、車椅子 での歩行など、安全に生活して頂けるような空間 作り、目配り、声かけに努めている。	○	全職員が一人一人の残存能力を理解し、生活リハ ビリの観点から日常生活動作を支援できるよう になりたい。
86	○わかる力を活かした環境づくり  一人ひとりのわかる力を活かして、混乱 や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工 夫している	一人一人の状態に応じて声かけや表示、ジェス チャーなど工夫している。また、表情の変化やサ インなど見逃さないよう努めている。	○	生活の中で、出来ることへの促しを心がけ、時間 などに追われずゆっくり行えるようにしたい。
87	○建物の外周りや空間の活用  建物の外周りやベランダを利用者が楽し んだり、活動できるように活かしている	園芸や物干し、テラスでお茶等、利用者の方が気 軽にテラスへ出られるよう工夫している。	○	四季に応じた活動プランを作り、本人の出来るこ と・楽しみへの支援をしていきたい。

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

V. サービスの成果に関する項目	
項 目	取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる ○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある ○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている ○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている ○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている ○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている ○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている ○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています ○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている ○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
		○	②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている		①ほぼ全ての職員が
		○	②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
		○	④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
		○	④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)